

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072200423
法人名	有限会社 ツーウェイ・ヒューマニゼーション グループホーム 和笑
事業所名	グループホーム 和笑
所在地	福岡県朝倉市長谷山393番地10 電話 0946-25-0377

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年3月9日	評価確定日	平成22年3月26日

【情報提供項目より】(平成 22 年 2 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
	又は1日1,100円		

(4) 利用者の概要(2 月 28 日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5	要介護2			
要介護3	2	要介護4		2	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.7 歳	最低 72 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野医院 上野医院 富田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム和笑」は、秋月の自然豊かな清流沿いの住宅地にある1ユニットのグループホームである。地域密着型サービスの方針に沿って、「和みの中笑みに包まれゆったり楽しく」「残された力で暮らしの喜びと自信を」「地域の方と仲良く楽しく」の理念を掲げ、全職員の共有に取り組んでいる。入居者はエプロンがけで食事の準備や片づけをしたり、きりっとした姿勢で食前・食後の挨拶をしたり、居室の整理整頓のこだわりを支援したり、愛読書の横に生けるバラの花を職員が持参したりと、生活歴・職歴・習慣等を活かした個別ケアをしている。日中過ごす居間では、入居者それぞれがカラフルな膝かけをしてお茶を飲みながら職員と丁々発止のやりとりに笑ったり、シルバーカーを押しながら近隣を散歩する様子は、運営者が地元住民であることもあり、近隣から「いつでも協力を」の声かけや理解につながっている。開設6年目を迎え、24時間対応可能なかかりつけ医との連携で健康を管理したり、かかりつけ医、家族等で緩和ケアについて話し合い、最後までホームでとの意向を支援し、2名の看取りに係わっている。今後はキャラバンメイトとして活躍できる職員もおり、要請があれば認知症や認知症ケアの周知に貢献することも検討するなど、さらなる地域との交流で理念の具現化が期待できる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を参考に改善計画シートを作成している。地域との交流として、ホーム便りの発行の検討や実践している缶拾いや近隣にホーム催し案内の声かけの推進や評価を活用した話し合いの場の設定などを検討し、研修記録様式を見直している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月毎に民生委員、老人会会長、市担当者、町社会福祉協議会会長、家族の参加で開催し、会議録を整備している。会議では入居者の近況、ホーム行事、外部評価について報告し、参加者が介護体験を話したりしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	今年の正月に、入居者の思いを掲載した便りを発行している。家族の訪問時や電話で入居者の心身の状況を報告している。預かり金はなく、立替で対応している。廊下にボランティアの来訪や折々のスナップ写真が掲示され、家族に入居者の笑顔や状況を伝えている。運営推進会議で家庭裁判所職員に成年後見制度について話してもらい、パンフレットを配付している。地域の方から制度について相談を受け、地域包括支援センターにつないでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育所や学童保育の来訪があり、出し物のお披露目に近隣の独居高齢者を誘ったりしている。踊りや手品のボランティアの来訪もある。今後はキャラバンメイトとして活躍できる職員もおり、要請があれば認知症や認知症ケアの周知に貢献することも検討している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に情報の提供をお願いしたり、入居状況の報告をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを整備している。運営推進会議で家庭裁判所職員に成年後見制度について話してもらい、パンフレットを配付している。地域の方から制度について相談を受け、地域包括支援センターにつないでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年の正月に、入居者の思いを掲載した便りを発行している。家族の訪問時や電話で入居者の心身の状況を報告している。預かり金はなく、立替で対応している。廊下にボランティアの来訪や折々のスナップ写真が掲示され、家族に入居者の笑顔や状況を伝えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの意見苦情窓口を明記している。事務室前に意見箱を設置し、介護サービスの意見や苦情の問い合わせ窓口のポスターを掲示している。家族の意見苦情等は申し送りで職員に共有化し、職員会議で検討している。平成18年に家族会は発足しているが、家族会代表が多忙になり1回のみ開催となっている。	○	家族会が発足しているのですが、意見や要望を表出する場だけではなく、家族同士の交流の場としても再開を期待します。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を十分に理解している。職員の勤務時間等を考慮し、就業を継続してもらったり、運営者も隣接の宅老所で介護に関わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	年齢、性別、経験の制限はなく、人柄を最優先に認知症を理解し、受け入れることができる人を採用している。雇用契約書、就業規則を整備し、年1回の定期健康診断を支援している。入居者がテレビを観られている傍で職員も昼休みをとり、寛いでいる。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	市介護保険事業者協議会で人権について研修したり、毎月の職員会議等で、入居者の理解に努め人権について学習している。身体拘束防止に関するマニュアルを整備している。	○	高齢者虐待に関するマニュアルを整備し、身体拘束防止と併せて研修会の開催や参加をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市介護保険事業者協議会の同業者部会のスタッフセミナーに参加している。職員会議で内容を伝達したり、研修実施記録様式を整備し、全職員に内容を回覧している。	○	職員の段階に応じた研修を受講できるように、年間の研修計画の作成をお願いします。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護保険事業者協議会の同業者部会に参加している。部会は開催を定例化し、当番制で反省や次年度の計画を作成している。事務局は当番制で、ホームが当番時には記録のとり方やレクリエーションの研修の実施、事例報告等でケアの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりの支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が退院等を迫られ、切羽詰って入居申込をすることが多いが、本人に合ったホームかの見極めを勧めている。申し込みだけでなくホームの雰囲気の見学をお願いしたり、居宅介護支援事業者と訪問することで情報を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の笑顔にほっとしたり、料理の工夫に学んだりしている。食事時の入居者と職員の丁々発止のやりとりから、ともに支え合う関係作りが伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向等を基本情報やアセスメントシートに整備している。家族と外出した入居者の状況を家族に伺ったり、日々の暮らしの中で入居者の意向の把握に常に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントから課題を抽出し、職員会議で入居者や意向を重視した介護計画を作成している。ホームに働きに来ていると思っている入居者には、食事準備や後片付けの声かけをする介護計画が作成され、個人記録にチェックするなど、入居者の思いや生活暦を活かした支援を実践している。介護計画書に入居者や家族の意向を明記し、作成した介護計画を説明し、同意を得ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングし、実施状況进行评估している。評価に沿って3ヶ月毎または状況に応じて随時課題の追加や削除をしている。見直した介護計画は入居者や家族に説明して同意を得ている。	○	毎月のモニタリングや評価表をまとめて支援経過等に整備してはいかがでしょうか。職員会議でも、課題が検討しやすくなりさらに課題の追加や削除がしやすくなると思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	肩こりを軽減するために、訪問マッサージを受けられるよう支援したり、入居者の状況に応じて個別に散歩や買い物支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員のバイタル等のチェックやかかりつけ医の定期的な訪問診療で、健康を管理している。専門医等の受診は基本的に家族に同行をお願いしている。受診内容は随時家族に連絡している。呂律が回らなくなり、緊急受診で重度化を免れたこともある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する方針の整備はないが、現在まで2名の入居者の看取りを24時間対応可能なかかりつけ医との連携で支援している。容態に応じてその都度、かかりつけ医、家族、職員で、緩和ケアについて話し合い、最後までホームでとの意向を支援している。	○	入居者や家族に重度化や終末期の希望や意向の表出を促しやすくするためにも、重度化や終末期に関する方針や意向確認書の整備をお願いしたい。また、看取りはチームケアが求められることから、職員の意識を統一するために研修をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に秘密保持や個人情報の取り扱いを明記し、担当者会議において個人情報を提供することに同意を得ているが、個人情報に関する規程や利用目的を掲示していない。個人情報に配慮し、ファイル等は事務室で管理している。職員は入居者に穏やかな声かけの対応をしている。	○	個人情報の利用目的を検討し、個人情報に関する方針とともにホーム内に掲示をお願いしたい。また、職員の守秘義務を明記した誓約書の取り交わしをお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の1日の流れはあるが、入居者の状況や意向に沿って支援している。居室で読書をしている入居者もいるが、就寝以外は食堂や居間で過ごす入居者が多い。日中のアクティビティも参加は自由で、入居当初は参加しなかったが最近では参加するようになった入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣から野菜等の差し入れも多く、頂き物をいかして献立を変更している。エプロンがけの入居者もあり、力量に応じて準備や後片付けを支援している。入居者・職員が全員食卓につき、食前・食後の挨拶を担当の男性入居者がしている。昼食のメニューを話題にしなが、職員は見守りや声かけで入居者のペースで食事できるように支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望すれば、毎日入浴できる。プライバシーを配慮し1対1で支援している。たまには入居者同士2人で入浴されることもある。入浴順番は希望者に合わせて支援している。入浴は無理強いせず、気分に合わせて3日に1回は入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や職歴等を考慮し、食事の準備や片づけ、ホームまわりの草取りをお願いしたりしている。食前・食後の挨拶を男性入居者が担当している。元大工の入居者に力量を発揮してもらう機会も検討している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	シルバーカーを押してホーム前の農道やめがね橋を散歩したり、近隣の買い物やドライブ、外食、季節毎の花見を楽しんでいる。連れ立った散歩を好まず1人で散歩される入居者もあり、職員が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関にアラームを設置している。以前入居間もない入居者が無断外出をした折には、ドンド焼きに集まった方々に協力をお願いしている。事無きを得ているが、その後近隣から連絡がある等、気にかけていただくようになった。区長会に出向き、理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網を整備し、呼び出し訓練を実施している。地元消防団に見回りや協力をお願いしている。近隣から協力の申し出もある。看護職員もいるが、消防署で救急蘇生法を学んでいる。消火器を設置し、台風時にはポリバケツに水を溜めたり、食材を買い置きしたりしている。	○	昨今の自然災害状況から予測できない災害も想定し、長期保存できる飲料水や食材等の備蓄の検討をお願いしたい。また、近隣からの協力の申し出もあるので隣接の介護サービス事業所と合同で避難訓練を計画し、近隣が被災した場合は互助したいことを区長会等でお願ひされたいかががでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が頂き物やその日の食材を活かして1日1,800Kcalを目安に塩分控え目で栄養バランスを考え献立を作成し、摂取量を記録している。水分は1,000～1,500ccを目標に毎食後や10時3時、入浴後に支援している。入居者の咀嚼や嚥下状態を把握し、摂取の声かけをしたりしている。月2回体重を測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まで手すりつきのスロープが設置され、玄関横にベンチとシルバーカーが並んでいる。玄関入口の下駄箱前にも腰掛けて履物の着脱ができるベンチが置かれている。事務室前には以前弾かれていたオルガンにクロスが掛けられ、上に手作りのお雛様が飾られ、季節を感じられる。広い廊下や共用空間を囲むように居室やトイレが配置され、居間兼食堂には天窓から日が差し込んでいる。大きな梁が洗濯物干しになるなど、一般家庭を思わせる。大きなテレビを囲む座り心地の良いソファで日中過ごす入居者が多く、カラフルな膝かけを掛けておしゃべりを楽しんでいる。畳敷きの一角もあり、洗濯物を畳んだりしている。オープンキッチンの前には食卓が並び、男性入居者は夫々気に入りの場所で過ごしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には入居者の名前や居室間違いを防止する説明が記載された表札が掛けられている。全居室にクロゼットが備え付けられ、家具調のベットや箆笥や鏡台など自宅で使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれている。家族の写真や作品等が飾ったり、愛読書やバラの花が置かれたり、整理整頓にこだわるなど個別的な居室づくりがある。特殊寝台をレンタルしている入居者もいる。		